

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R部会
地上業務委員会(第12回) 議事概要(案)

1 開催日時

平成22年9月30日(木)10:00~12:30

2 場所

総務省 8階 第1特別会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[構成員]

高畑 文雄(主査)、足立 朋子、飯塚 留美、小坂 克彦、佐藤 明雄、佐藤 孝平、
土田 敏弘(関係者:中津川)、橋本 明

[説明者]

新 博行、石川 禎典、小松 裕、菅田 明則、丹野 元博、本多 美雄

[事務局]

越後移動通信企画官、山崎係長、中村官(移動通信課)

4 配付資料

資料地－１２－１ 地上業務委員会(第11回) 議事要旨(案)

資料地－１２－２ ITU-R SG5 WP5D第8回会合報告書

資料地－１２－３ ITU-R SG5 WP5D第9回会合への日本寄与文書(案)

資料地－１２－３ ITU-R SG5 WP5D第9回会合への対処方針(案)

参考資料1 新勧告草案M. [IMT. RSPEC]の完成に向けたスケジュール及び技術・事務手続き
上の入力に関するリエゾン文章

参考資料2 Document IMT-ADV/24

参考資料3 ITU-R SG5 WP5D第9回会合の開催案内

参考資料4 ITU-R SG5 WP5D第9回会合の日本代表団一覧

参考資料5 地上業務委員会 構成員名簿

5 議事概要

(1) 地上業務委員会(第11回)議事概要について

【資料地12-1】

地上業務委員会(第11回)議事概要(案)について、特段の意見なく承認された。

(2) ITU-R SG5 WP5D 第8回会合の報告について

【資料地12-2】

事務局より、平成22年6月に開催されたWP5D第9回会合の報告があった。また、参考資料1及び参考資料2について説明があり、次回会合においてGCSのプロポーネントになる希望者はForm Aを提出することになっているが、日本としてはプロポーネントにはならないためForm Aを提出しない旨、およびEEEと3GPPがGCSのプロポーネントになることを推薦する旨の報告があり、特段の意見なく承認された。

(4) ITU-R SG5 WP5D会合への日本寄書について

【資料地12-3-1】

菅田氏より、「新勧告/レポート草案ITU-R[IMT.UPDATE]の改定提案グローバル広帯域無線サービス及びIMT市場の分析と評価」に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施した上で、承認された。

(質疑応答)

橋本構成員: 中韓共同寄与文書であるJ-9は、レポート全体の目次の再編成の提案であり関連文書となっている。本寄与文書のGeneralにその旨を触れた方が良いのではないかと。Attachmentの「J proponent's note」については、「Japan's note」の方が良いのではないかと。また、日本以外の記述は修正していないとのことだが、章を再構成した際、他国が提案した部分にも変更があるのではないかと。「Chapter 5 Trends of Future IMT services」と「Chapter 6 Forecast of the Future IMT Services」の違いは何か。「4.2 Case Study - Japan:」部分については日本のパラグラフという認識でよいのか。「5.4 Plans for release of spectrum」の内容はレポートの目的と一致するのか。佐藤(孝)氏: 関連文書については、J-1とJ-9の関係を明確にするためにも本寄与文書のGeneralで触れることは適切である。「5 Trends of Future IMT services」は現在における各国におけるトレンドの事実を記載する。「6 Forecast of the Future IMT Services」は各国の今後の予測が記載されている。

佐藤(孝)氏: 関連文章については、J-1とJ-9の関係を明確にするためにも本寄与文書のGeneralで触れることは適切である。「5 Trends of Future IMT services」

は現在における各国におけるトレンドの事実を記載する。「6 Forecast of the Future IMT Services」は、各国の今後の予測が記載されている。

菅 田 氏: エディトリアルな部分は修正する。佐藤(孝)構成員から話のあった章構成については、他国の提案部分にも触れているので、ご指摘のとおり「J proponent's note」を修正する。「4.2 Case Study - Japan:」については今後、各国から情報がでてきたときに適切な表現に修正する。「5.4 Plans for release of spectrum」については、将来予測ということで周波数検討プランの内容を明記するつもりである。

高 畑 主 査: 方向性としては良いが、担当の方と議論して内容を検討していただきたい。

【資料地12-3-2】

新氏より、「新報告草案ITU-R M.[IMT.CRS]に向けた作業文章への修正提案」に関する寄与文書案について説明が行われ、エディトリアルな修正を施した上で、承認された。

(質疑応答)

橋 本 構 成 員: P.8のFig.2では、CRSを備えることでどういう効果が得られると言いたいのか。

新 氏: どのような効果が得られるかを示したのではなく、CRSを備えたシステムが既存のIMTシステムと周波数を共存して得られるキャパシティーの数値レートを示している。

橋 本 構 成 員: CRSを備えている場合と備えていない場合ではFig2にどのように現れるのか。

新 氏: CRSを備えたシステム場合、キャパシティーが $+\alpha$ (Fig2の縦軸に相当)で確保できる。

橋 本 構 成 員: このFig1は本文とAnnexに掲載されているが、同じ図の掲載は不要ではないか。

新 氏: 解析でどういうcase studyしているかを示すために本文にfig1を入れた方がわかりやすいと思うので、Annexの図を削除する方向で検討したい。

【資料地12-3-3】

新氏より「IMT-Advanced開発プロセスにおけるStep 7の結論に係る提案」に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

高 畑 主 査: 中国とTTAの意向はどのようなのか。

新 氏: 日中韓で調整している。そこで合意された内容に沿ったものを日本単独

でも提出する。これは日本が二方式に係る技術を提案しており、日本の方向性を単独でも示す意味で別寄与文書として入力する。

【資料地12-3-4】

石川氏より、「M.[IMT.RSPEC]作業文章に関する修正提案」に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施した上で、承認された。

(質疑応答)

橋本構成員: Attachment 1 の 2 Scope に記載されている IMT-ADV/24 は、ITUにおける公式文章ではないので適切な記述ではない。例えばADVのある Web ページのURLを note につけてはどうか。

石川氏: コメントのとおり修正することとしたい。

橋本構成員: Attachment 2にある「Specification List」と「Transposed Status and Hyper link」の表は勧告のどこに記載するのか。

石川氏: M.[IMT.RSPEC]のAnnexに記載する予定。

【資料地12-3-5】

丹野氏より、「3400-3600MHzにおける周波数アレンジメント作成に関する考察」について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

高畑主査: WP4Aからのリエゾンは各国に向けて問われているのか。

丹野氏: 直接問われているわけではないが、日本の意見を明確な形にしたいので寄書を入力する。

高畑主査: 了。

【資料地12-3-6】

小松氏より、「新勧告草案IMT.MITIGATIONIに向けた作業文書への修正提案」に関する寄与文書案について説明が行われ、下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施した上で、承認された。

(質疑応答)

佐藤(明)構成員: 寄与文章要旨の経緯に今回完成すると記載されているが、提案内容には完成度の高い文書の作成を目的とすると記載してあるがどういう意味なのか。

小松氏: 予定では次回会合で完成だったが、WP4Aにおいてタイトルに懸念がある

ことを考えると完成は難しいため、日本からは完成度の高い文書作成を目的として提案している。

橋本構成員:スケジュールに関するリエゾン(5D/793)には再度議論する必要があるとの記述があるので、今回の提案はこれで良いと思う。

小坂構成員:WP4も係わってくるのでWPA5Dだけでは採択できないのではないかと。

小松氏:WP4Aにはリエゾンを送り続けているので、単独で承認できないというわけではない。

橋本構成員:Attachment Scopeの「It is noted ~」はもともとあったのか。これはScopeとして相応しくない記述である。RRを引用するのではなく、RRを受けてどのようにするかを記述しなければならない。

足立構成員:Attachment Scopeに追加された文章が長すぎるので、分割して記述した方が良いのではないかと。

小松氏:Attachment Scopeについては、ご指摘を踏まえ修正させて頂く。

橋本構成員:P.13のタイトルについて、Attachment 2からAppendixに変更した理由はなにか。

小松氏:ここに記載されている技術は将来の干渉軽減技術なので、現在の技術と比較するためにもランクを下げた方が良いとの判断でAppendixに変更した。

【資料地12-3-7】

本田氏より、「第9回WP 5D会合におけるIMT-Advanced開発のためのアクションの提案」について説明が行われ、特段の意見なく承認された。

【資料地12-3-8】

新氏より、「新報告草案ITU-R M.[IMT.RADIO]への修正提案」について説明が行われ、下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施した上で、承認された。

(質疑応答)

橋本構成員:本文中のADVIについては、WebページのURLをnote1につけるとよいのではないかと。また、新勧告案のタイトルが一般的なレポートとして相応しくない。既に日中韓で内容が固まっており修正ができない場合は現地で対応願う。

新氏: URLの追加については承知した。また、ご指摘いただいたタイトルについては日中韓で問題意識は持っている。もう一度打診してみるが、修正が難しい場合は、現地で対応したい。高畑主査:この寄書はどこから入力するのか。また、中国・韓国では承認されているのか。

新 氏:本寄書は日本から入力するもの。また、中国・韓国では既に承認されている。

高 畑 主 査:P.102、P.103において、どの[]を削除するかは誰が決定するのか。

新 氏:担当者レベルでどれが適切か決めているところ。用語の問題なので本質的な問題ではないと認識している。

【資料地12-3-9】

菅田氏より、「ITU-R新レポート草案[IMT.UPDATE]の章構成の提案」について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

橋 本 構 成 員:寄与文書要旨では[IMT.UPDATE]の完成時期を第12回会合とし、厳守するとなっているが、寄与文書本文には記載されていない。

菅 田 氏:ご指摘のとおりであるが、同様の内容がIntroductionの下部に記載している。

橋 本 構 成 員:タイトルと本文に記載されている内容のステイタスが異なるのではないかと。日中韓ではどのように整理されているのか。

菅 田 氏:日中韓ではレポートとして整理されている。

(5)ITU-R SG5 WP5D第9回会合への対処方針について

【資料地12-4】

事務局より、ITU-R SG5 WP5D第9回会合への対処方針(案)について説明があり、特段の意見なく承認された。

(5)その他

【参考資料3~5】

承認された寄書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。